

TAKE OFF

ハワイ大学ヒロ校「留学の思い出」

葭江芳夫（東京都豊島区）

「ハワイ」と聞くと多くの方はワイキキのあるオアフ島を思い浮かべると思いますが、ハワイ大学ヒロ校があるハワイ島はオアフ島とは全く異質の島で、ハワイ独特の生態系を維持した自然の豊かな、ゆったりとした時間が経過する島です。

僕が高校生の頃（50年前）アメリカ東部のアイビーリーグのブラウン大学に留学しようと願書を出しましたが、授業料と寮費で年間約 10,000 ドルと記載されていました。この金額は今なら 100 万円強ですが、当時はとんでもなく高額なものでした。ご存知のように当時の大学卒の初任給は 2 万円位です。しかも 1 ドルが 360 円の固定相場でしたから、考えてみれば月給はドルに換算すれば、わずか 50 ドル程度だったわけです。悔しかったけれど断念しました。

定年退職を迎えるころから「やり残している夢：アメリカに留学しよう」と考え始め、取りあえずハワイ大学ヒロ校傘下の IEP（Intensive English Program 集中英語講座）に入学しました。

そして運よく TOEIC の点数が同大学の入学レベルにあるということで入学が許可されました。60 歳の春でした。

ハワイ大学…何となくノンビリしたイメージがありますが、アメリカの大学です。教養学部(Liberal Arts)に入学したのですが、4年間毎日が勉強！勉強の日々でした。教科書を読んで要点を書き、自分の意見を書き加えて提出する授業がほとんどでした。教科書を 30 ページくらい読むのは日本語でしたら大したことではないのですが、当たり前ですが英文です。現地の学生との時間の差をつくづく感じさせられました。試験の時は「生まれて初めてこんなに勉強した」という経験もしました。大学と自宅と図書館にしか行く時間がないのです。そして何とか卒業までこぎつけることができました。

楽しいことも多かったです。ハワイの学生はもちろん

ん、教授まで自分が挙手をすると「Yes.Sir.」とリスペクトしてくれたり、日本では考えられない光景でした。またハワイの学生のほか、海外から来た留学生とよく一緒に食事をしたり映画を見に行ったり仲良くなりました。“年齢差が 40 歳ある”という意識が全くなくなっている自分にも驚きました。卒業後も彼らのいる母国に時々、遊びに行ったりしています。また今でもヒロに行くと同級生…といってもまだ 20 歳後半の若い人達…が待っていて、ハグしてくれます（笑）。マウナケア山で星空説明のボランティアも通算で 180 時間くらいしましたが、ギリシャ神話を交えて英語での星座説明がこんなに大変で楽しいこととは予想していませんでした。

また住まいは一軒家のシェア・ハウスの一室を借りました。月 500 ドルでユーティリティ込みです。同居人はインドの天文学者、アメリカ人の物理専攻の学生、カナダから来た薬剤師志望の男子学生等々多彩で、彼らの生態をキッチンで見るのは本当に楽しかった。カミさんが料理してくれたてんぷらや刺身に感動し、その後、彼等自身でポケ（キハダマグロの刺身）を買いに行ったのにはびっくりしました。

また、ハワイ島では車は必需品です。中古を友人から 3,000 ドルで買いましたが、帰国時には 2,000 ドルで日本人の留学生に売ることができたのです。「動ける車」には値段がつくのは驚きです。道端に“For Sale”と書いたボロボロの車が売られていたり…。

60 歳を過ぎてから友達をつくるのは大変ですが、こんな出会いがある「留学」はとても有意義だったと感じています。

今は、思い残すことのないような人生…「我、事に於いて後悔せず」の信念で、古希になる自分にハッパをかけて楽しんでいます。



歴史クラスのクリスマスパーティー